

Sony Group AI Ethics Activity

**To accelerate and promote AI development and utilization
of the Sony Group**

AI Collaboration Office

ソニーグループAI倫理ガイドライン (2018/9 Release)

- ソニーグループAI倫理ガイドライン
 - 前文
 - 適用範囲
 - 定義
 - 方針の見直し

理念

ソニーが目指す「在るべき姿」

統合性

- 豊かな生活とより良い社会の実現
- ステークホルダーとの対話
- 安心して使える製品・サービスの提供
- プライバシーの保護
- 公平性の尊重
- 透明性の追求
- AIの発展と人材の育成

ASL/AMT, Partnership on AI, 国際計, 人工知能学会, 総務省, 経済産業省, 個人情報保護委員会, AI倫理ガイドライン

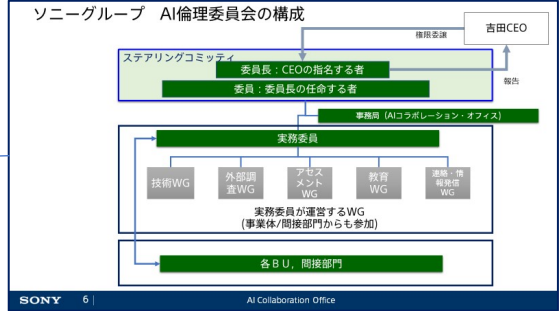
社外のAI関連団体など多岐にわたる

ソニーグループのPurpose & Valuesをうけて 2019年3月に更新

SONY 4 | AI Collaboration Office

ソニー G p A I 倫理ガイドライン

体制



教育と啓発：AIを活用し社会の発展に寄与するために

ソニーグループ45社 約3万人の受講

全社員向けeLearning
AI倫理とはなにか、ソニーグループAI倫理ガイドライン概略、データマネジメント概略

シンポジウム 対談、専門家による講演会

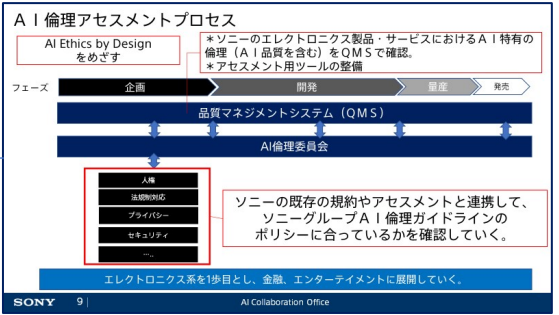
社内ポータルによる 情報共有、情報発信

社外HPによる発信と 外部コラボレーション

SONY 7 | AI Collaboration Office

教育

遵守ルール・プロセス・オペレーション



XAIの実現事例

機械学習を用いた予測分析ソフトウェア「Prediction One」の提供を開始
～専門知識や経験がなくても、幅広い分野で高精度な予測分析が可能に～

Neural Network Console Windows版Version 1.50公開

https://support.dl.sony.com/blogs-ja/neural-network-console-winapp-update-1.50/

https://www.sonynetwork.co.jp/corporation/release/2019/pr20190612_0019.html

SONY 11 | AI Collaboration Office

ツール (アセスメント、技術)

パイロットアセスメント

事例

1999 → 2018

ソニーは1999年にAIBOを発表
当時、さまざまな認識技術を含むAI・ロボットに關してのリスクアセスメントをQAとして実施。
新しいaibo@2018にもその経験を活かしている
AI倫理が話題になる前からソニーには誤認識などを含むAI品質に関しては重要視するカルチャーがある。

IMX-500は、組み込みAIを含む新しいイメージセンシングデバイス。
M S F TとJoint-Labを構築し、そこでサードパーティを含んで、AIの開発を進行中
AI倫理の分野でもM S F Tと共同でAIマネジメント体制をつくり、アセスメントプロセスを構築中。

SONY 13 | AI Collaboration Office

外部との協業

Ethics + Emerging Sciences Group

Keidanren Policy & Action AI活用戦略
～AI-Readyな社会の実現に向けて～

内閣府
人財中心のAI社会 閣僚会議
内閣府
AI戦略実行会議

総務省
AIネットワーク社会 推進会議

BSR PARTNERSHIP ON AI

Microsoft For IMX-500

OECD AI

GPAI (AI and Partners Response SubGroup)

注意：ロゴに關しての使用許可は得てない。

SONY 20 | AI Collaboration Office

外部協業

ソニーグループAI倫理ガイドライン (2018/9 Release)

- ソニーグループAI倫理ガイドライン
 - 前文
 - 適用範囲
 - 定義
 - 方針の見直し

理念

ソニーが目指す「在るべき姿」

統合性

- 豊かな生活とより良い社会の実現
- ステークホルダーとの対話
- 安心して使える製品・サービスの提供
- プライバシーの保護
- 公平性の尊重
- 透明性の追求
- AIの発展と人材の育成

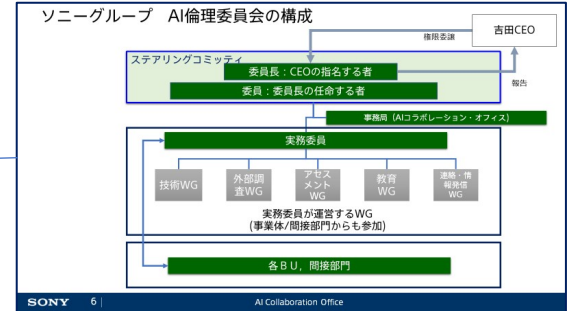
ASU/AMT, Partnership on AI, 人工知能学会, 総務省, 経産省, 社外のAI関連団体など多岐文脈

ソニーグループのPurpose & Valuesをうけて 2019年3月に更新

SONY 4 | AI Collaboration Office

ソニー G p A I 倫理ガイドライン

体制



教育と啓発：AIを活用し社会の発展に寄与するために

ソニーグループ45社 約3万人の受講

全社員向けeLearning
AI倫理とはなにか、ソニーグループAI倫理ガイドライン概略、データマネジメント概略

シンポジウム 対談、専門家による講演会

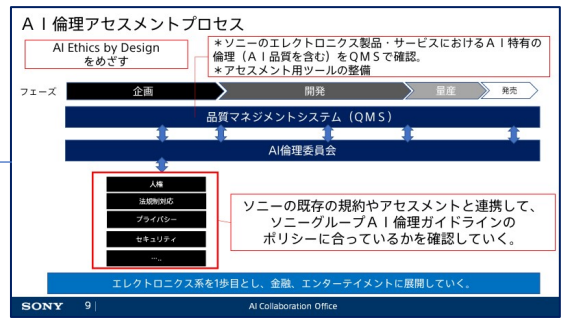
社内ポータルによる 情報共有、情報発信

社外HPによる発信と 外部コラボレーション

SONY 7 | AI Collaboration Office

教育

遵守ルール・プロセス・オペレーション



XAIの実現事例

機械学習を用いた予測分析ソフトウェア「Prediction One」の提供を開始
～専門知識や経験がなくても、幅広い分野で高精度な予測分析が可能に～

Neural Network Console Windows版Version 1.50公開

https://support.dl.sony.com/blogs-ja/neural-network-console-winapp-update-1.50/

https://www.sonynetwork.co.jp/corporation/release/2019/pr20190612_0019.html

SONY 11 | AI Collaboration Office

ツール (アセスメント、技術)

パイロットアセスメント

事例

1999

2018

- ソニーは1999年にAIBOを発表
- 当時、さまざまな認識技術を含むAI・ロボットに関するリスクアセスメントをQAとして実施。
- 新しいaibo@2018にもその経験を活かしている
- AI倫理が話題になる前からソニーには誤認識などを含むAI品質に関しては重要視するカルチャーがある。
- IMX-500は、組み込みAIを含む新しいイメージセンシングデバイス。
- M S F TとJoint-Labを構築し、そこでサードパーティを含んで、AIの開発を進行中
- AI倫理の分野でもM S F Tと共同でAIマネジメント体制をつくり、アセスメントプロセスを構築中。

SONY 13 | AI Collaboration Office

外部との協業

Ethics + Emerging Sciences Group

Keidanren Policy & Action AI活用戦略

CAI POLY

内閣府 人間中心のAI社会 実現会議

内閣府 AI戦略実行会議

総務省 AIネットワーク社会 推進会議

BSR PARTNERSHIP ON AI

Microsoft For IMX-500

OECD AI GPAI (AI and Partnerships Response SubGroup)

注意：ロゴに關しての使用許可は得てない。

SONY 20 | AI Collaboration Office

外部協業

ソニーグループAI倫理ガイドライン (2018/9 Release)

ソニーグループAI倫理ガイドライン

- 前文
 - 適用範囲
 - 定義
 - 指針の見直し
- 豊かな生活とより良い社会の実現
 - ステークホルダーとの対話
 - 安心して使える製品・サービスの提供
 - プライバシーの保護
 - 公平性の尊重
 - 透明性の追求
 - AIの発展と人材の育成

理念



設立趣意書



ミッション
ビジョン



ソニーグループ
行動規範



ソニーが目指す「在るべき姿」

整合性



ASILOMAR
AI PRINCIPLES



Partnership on AI
TENETS



人工知能学会
倫理指針

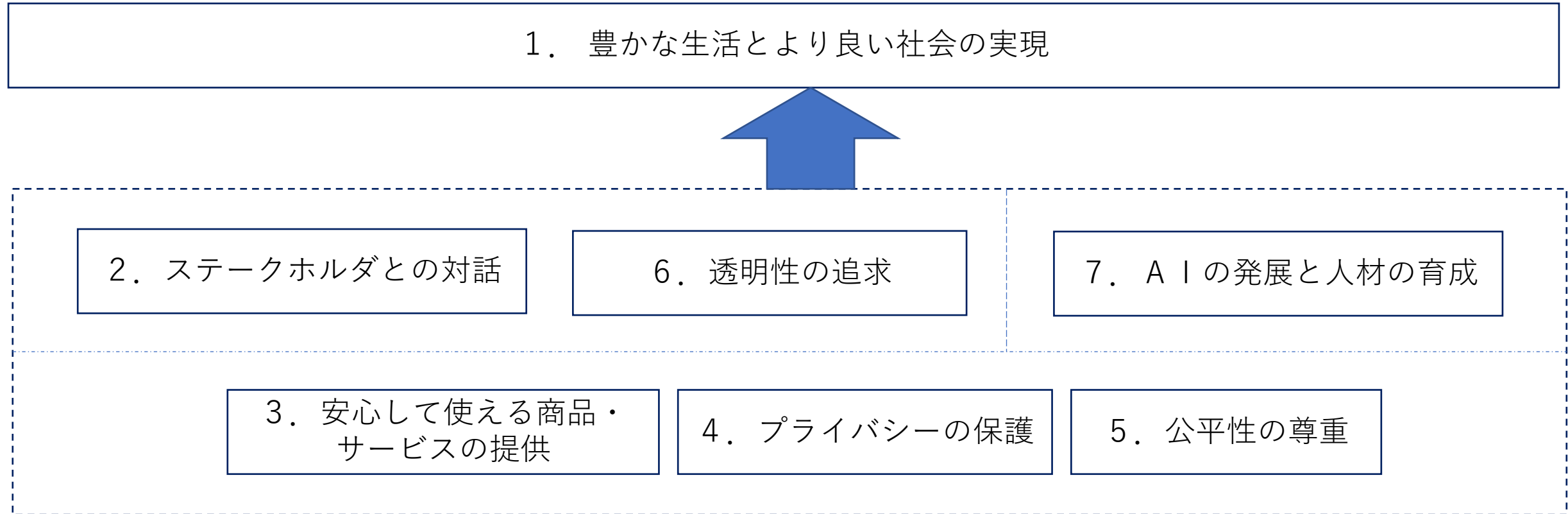


総務省
AI開発ガイドライン

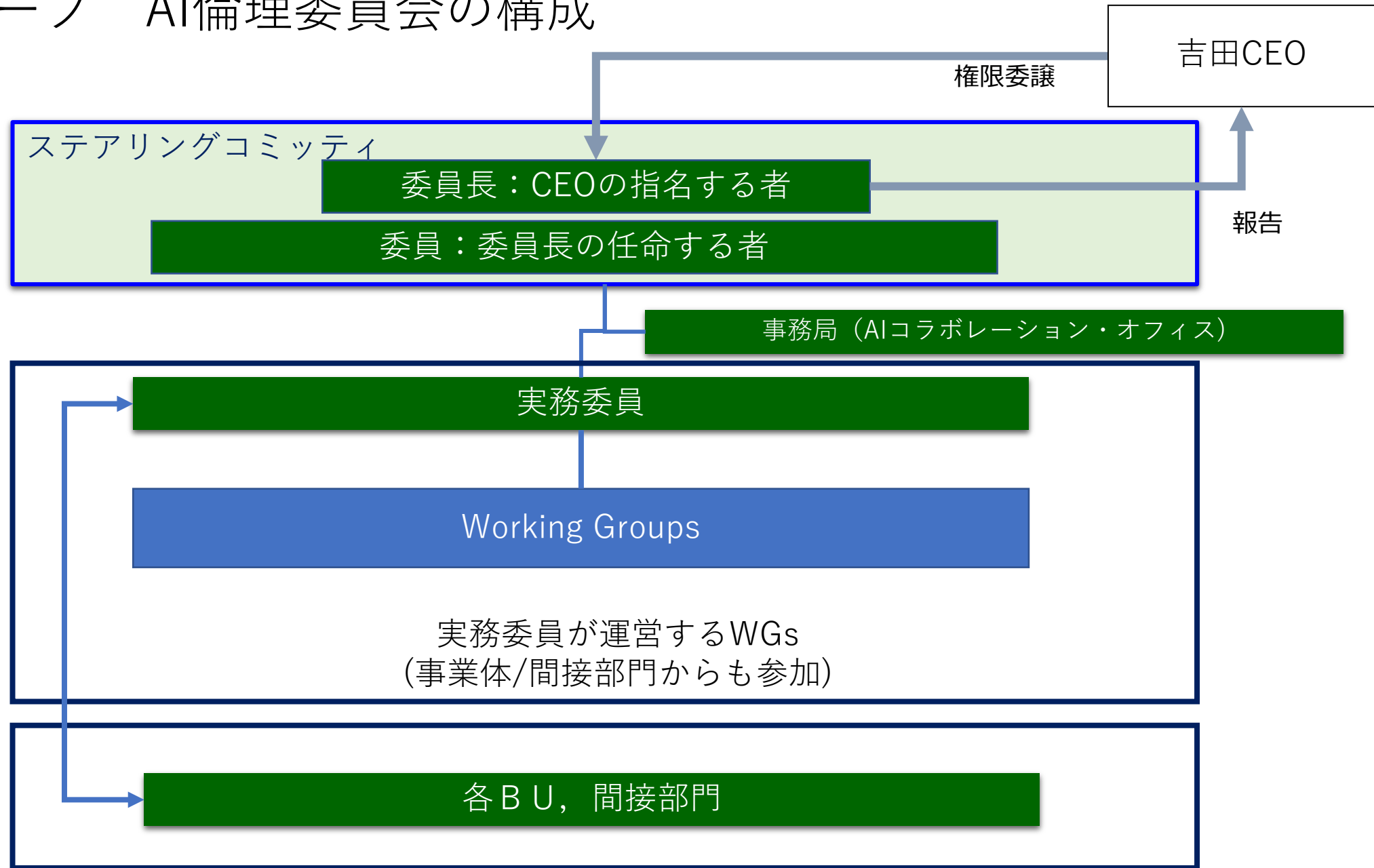
社外のAI関連指針など参考文献

ソニーグループのPurpose & Valuesをうけて
2019年3月に更新

ソニーグループ A I 倫理ガイドラインの構成



ソニーグループ AI倫理委員会の構成



ソニーグループAI倫理ガイドライン (2018/9 Release)

- ソニーグループAI倫理ガイドライン
 - 前文
 - 適用範囲
 - 定義
 - 方針の見直し

1. 豊かな生活とより良い社会の実現
 2. ステークホルダーとの対話
 3. 安心して使える製品・サービスの提供
 4. プライバシーの保護
 5. 公平性の尊重
 6. 透明性の追求
 7. AIの発展と人材の育成

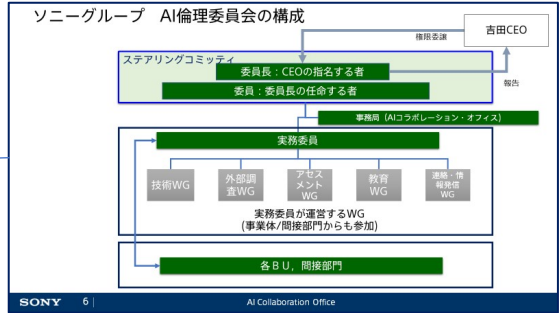
ソニーが目指す「在るべき姿」

ASIL/AMT, Partnership on AI, 人工知能学会, 総務省, 経産省, 社内AI倫理指針など参考文献

ソニーグループのPurpose & Valuesをうけて 2019年3月に更新

ソニー G p A I 倫理ガイドライン

体制



教育と啓発：AIを活用し社会の発展に寄与するために

ソニーグループ45社 約3万人の受講

AI倫理とはなにか、ソニーグループAI倫理ガイドライン概略、データマネジメント概略

全社員向けeLearning

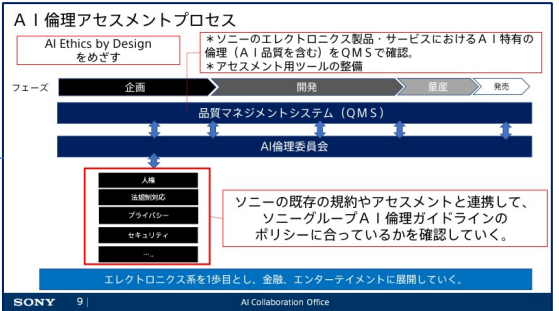
シンポジウム 対談、専門家による講演会

社内ポータルによる 情報共有、情報発信

社外HPによる発信と 外部コラボレーション

教育

遵守ルール・プロセス・オペレーション



XAIの実現事例

機械学習を用いた予測分析ソフトウェア「Prediction One」の提供を開始

～専門知識や経験がなくても、幅広い分野で高精度な予測分析が可能に～

Neural Network Console Windows版Version 1.50公開

https://support.dl.sony.com/blogs-ja/neural-network-console-winapp-update-1.50/

https://www.sonynetwork.co.jp/corporation/release/2019/pr20190612_0019.html

ツール (アセスメント、技術)

事例

1999: AIBO (AIロボットの登場)

2018: AIBO@2018 (AIロボットの進化)

- ソニーは1999年にAIBOを発表
- 当時、さまざまな認識技術を含むAI・ロボットに関するリスクアセスメントをQAとして実施。
- 新しいaibo@2018にもその経験を活かしている
- AI倫理が話題になる前からソニーには誤認識などを含むAI品質に関しては重要視するカルチャーがある。
- IMX-500は、組み込みAIを含む新しいイメージセンシングデバイス。
- M S F TとJoint-Labを構築し、そこでサードパーティを含んで、AIの開発を進行中
- AI倫理の分野でもM S F Tと共同でAIマネジメント体制をつくり、アセスメントプロセスを構築中。

パイロットアセスメント

外部との協業

Ethics + Emerging Sciences Group

Keidanren Policy & Action AI活用戦略

CAI POLY

内閣府 人間中心のAI社会 実現会議

内閣府 AI戦略実行会議

総務省 AIネットワーク社会 推進会議

BSR PARTNERSHIP ON AI

Microsoft For IMX-500

OECD AI GP AI (AI and Platform Response SubGroup)

注意：ロゴに關しての使用許可は得てない。

外部協業

教育と啓発：A I を活用し社会の発展に寄与するために

全社員むけeLearning
AI倫理とはなにか、ソニーグループA I 倫理ガイドライン概略、データマネジメント概略

シンポジウム
対談、
専門家による講演会

社内ポータルによる
情報共有、情報発信

社外HPによる発信と
外部コラボレーション

ソニーグループAI倫理ガイドライン (2018/9 Release)

- ソニーグループAI倫理ガイドライン
 - 前文
 - 適用範囲
 - 定義
 - 方針の見直し

理念

ソニーが目指す「在るべき姿」

統合性

- 豊かな生活とより良い社会の実現
- ステークホルダーとの対話
- 安心して使える製品・サービスの提供
- プライバシーの保護
- 公平性の尊重
- 透明性の追求
- AIの発展と人材の育成

ASL/OMAT, Partnership on AI, 国際化, 人工知能学会, 総務省, 経済産業省, AI倫理ガイドライン

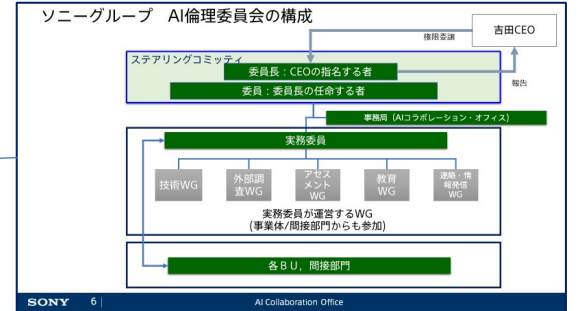
社外のAI関連団体など多岐文脈

ソニーグループのPurpose & Valuesをうけて 2019年3月に更新

SONY 4 | AI Collaboration Office

ソニー G p A I 倫理ガイドライン

体制



教育と啓発: AIを活用し社会の発展に寄与するために

ソニーグループ45社 約3万人の受講

AI倫理とはなにか、ソニーグループAI倫理ガイドライン概略、データマネジメント概略

全社員向けeLearning

シンポジウム 対談、専門家による講演会

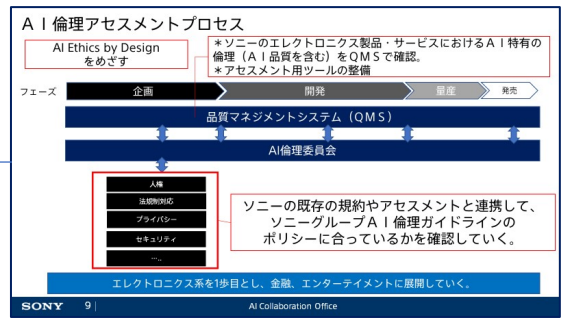
社内ポータルによる 情報共有、情報発信

社外HPによる発信と 外部コラボレーション

SONY 7 | AI Collaboration Office

教育

遵守ルール・プロセス・オペレーション



XAIの実現事例

機械学習を用いた予測分析ソフトウェア「Prediction One」の提供を開始

～専門知識や経験がなくても、幅広い分野で高精度な予測分析が可能に～

Neural Network Console Windows版Version 1.50公開

https://support.dl.sony.com/blogs-ja/neural-network-console-winapp-update-1.50/

https://www.sonynetwork.co.jp/corporation/release/2019/pr20190612_0019.html

SONY 11 | AI Collaboration Office

ツール (アセスメント、技術)

事例

1999: AIBO (AI Robot Dog)

2018: AIBO@2018 (AI Robot Dog)

- ソニーは1999年にAIBOを発表
- 当時、さまざまな認識技術を含むAI・ロボットに関するリスクアセスメントをQAとして実施。
- 新しいaibo@2018にもその経験を活かしている
- AI倫理が話題になる前からソニーには誤認識などを含むAI品質に関しては重要視するカルチャーがある。
- IMX-500は、組み込みAIを含む新しいイメージセンシングデバイス。
- M S F TとJoint-Labを構築し、そこでサードパーティを含んで、AIの開発を進行中
- AI倫理の分野でもM S F Tと共同でAIマネジメント体制をつくり、アセスメントプロセスを構築中。

SONY 13 | AI Collaboration Office

パイロットアセスメント

外部との協業

Ethics + Emerging Sciences Group

Keidanren Policy & Action AI活用戦略

CAI POLY

内閣府 人間中心のAI社会 実現会議

内閣府 AI戦略実行会議

総務省 AIネットワーク社会 推進会議

BSR PARTNERSHIP ON AI

Microsoft For IMX-500

OECD AI GPAI (AI and Partnerships Response SubGroup)

注意: ログに關しての使用許可は得てない。

SONY 20 | AI Collaboration Office

外部協業

遵守ルール、プロセス、オペレーション

-- アセスメント = ガイドラインに沿っているか？

1. 豊かな生活とより良い社会の実現

• **社会受容性のある目的のものか？**



2. ステークホルダとの対話

- **利益と共に可能性のある損益の共有**
- **アカウントビリティ**

6. 透明性の追求

- **データやモデルの記述**
- **判断の根拠**

7. AIの発展と人材の育成

- **技術開発と活用開発**
- **AI開発、活用人材の育成**

3. 安心して使える商品・サービスの提供

- **誤認識、誤用、悪用対策**
- **身体、精神、物理損傷などの防止**
- **システムの脆弱性確認**

4. プライバシーの保護

- **個人情報保護**
- **Data Extractionなど**

5. 公平性の尊重

- **センシティブ属性に対するバイアス確認**
- **多様なステークホルダーへの配慮**

アカウントビリティと透明性

アカウントビリティ

下記を行う体制構築とステークホルダとの対話

- 事前に顧客体験価値とリスクを説明し、ステークホルダーに納得してもらう
- インシデントが起きた時に、原因追及と責任の所在を明らかにし、説明し、必要であれば謝罪と補償をおこなう。

透明性

- 顧客体験価値の説明資料
- 想定できるリスクの説明資料

- 原因追及のための仕掛け（ログ、追試可能とする情報）
- 分析手法の開発（XAIなど）

- Transparency Note（使用条件や誤認識説明を含む）
- Model Card（性能を含む）
- Data Card（データ所得方法、分布などを含む）

A I 倫理アセスメントプロセス

AI Ethics by Design
をめざす

* ソニーのエレクトロニクス製品・サービスにおけるA I特有の倫理（A I品質を含む）をQMSで確認。
* アセスメント用ツールの整備

フェーズ



- 人権
- 法規制対応
- プライバシー
- セキュリティ
- ...

ソニーの既存の規約やアセスメントと連携して、ソニーグループA I倫理ガイドラインのポリシーに合っているかを確認していく。

エレクトロニクス系を1歩目とし、金融、エンターテインメントに展開していく。

ソニーグループAI倫理ガイドライン (2018/9 Release)

- ソニーグループAI倫理ガイドライン
 - 前文
 - 適用範囲
 - 定義
 - 方針の見直し

理念

ソニーが目指す「在るべき姿」

統合性

- 豊かな生活とより良い社会の実現
- ステークホルダーとの対話
- 安心して使える製品・サービスの提供
- プライバシーの保護
- 公平性の尊重
- 透明性の追求
- AIの発展と人材の育成

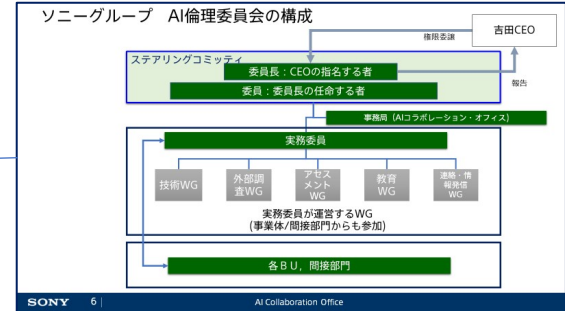
ASL/AMT, Partnership on AI, 人工知能学会, 総務省, 経産省, 社外のAI関連団体など多岐にわたる

ソニーグループのPurpose & Valuesをうけて 2019年3月に更新

SONY 4 | AI Collaboration Office

ソニー G p A I 倫理ガイドライン

体制



教育と啓発：AIを活用し社会の発展に寄与するために

ソニーグループ45社 約3万人の受講

全社員向けeLearning
AI倫理とはなにか、ソニーグループAI倫理ガイドライン概略、データマネジメント概略

シンポジウム 対談、専門家による講演会

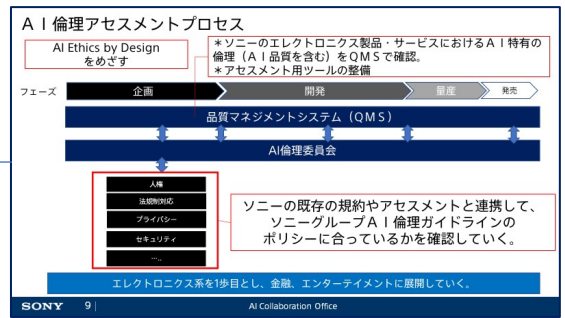
社内ポータルによる 情報共有、情報発信

社外HPによる発信と 外部コラボレーション

SONY 7 | AI Collaboration Office

教育

遵守ルール・プロセス・オペレーション



XAIの実現事例

機械学習を用いた予測分析ソフトウェア「Prediction One」の提供を開始
～専門知識や経験がなくても、幅広い分野で高精度な予測分析が可能に～

Neural Network Console Windows版Version 1.50公開

https://support.dl.sony.com/blogs-ja/neural-network-console-winapp-update-1.50/

https://www.sonynetwork.co.jp/corporation/release/2019/pr20190612_0019.html

SONY 11 | AI Collaboration Office

ツール (アセスメント、技術)

事例

- ソニーは1999年にAIBOを発表
- 当時、さまざまな認識技術を含むAI・ロボットに関するリスクアセスメントをQAとして実施。
- 新しいaibo@2018にもその経験を活かしている
- AI倫理が話題になる前からソニーには認識などを含むAI品質に関しては重要視するカルチャーがある。
- IMX-500は、組み込みAIを含む新しいイメージセンシングデバイス。
- M S F TとJoint-Labを構築し、そこでサードパーティを含んで、AIの開発を進行中
- AI倫理の分野でもM S F Tと共同でAIマネジメント体制をつくり、アセスメントプロセスを構築中。

SONY 13 | AI Collaboration Office

パイロットアセスメント

外部との協業

Ethics + Emerging Sciences Group

Keidanren Policy & Action AI活用戦略
～AI-Readyな社会の実現に向けて～

内閣府 人間中心のAI社会 実現会議
内閣府 AI戦略実行会議

総務省 AIネットワーク社会 推進会議

BSR PARTNERSHIP ON AI

Microsoft For IMX-500

OECD AI GPAI (AI and Partnerships Response SubGroup)

注意：ロゴに關しての使用許可は得てない。

SONY 20 | AI Collaboration Office

外部協業

AI倫理ガイドラインと技術

Guidelines	Technology / Related Tools	Examples
1.豊かな生活とより良い社会の実現		
2, ステークホルダーとの対話		
3.安心して使える商品・サービスの提供	通常の品質、安全安心技術に加え <ul style="list-style-type: none">性能向上としてのXAIAIセキュリティ（AIシステムのロバストネスや不正検出）	Grad-cam, Lime, Influence, Adversarial Examples,
4.プライバシーの保護	<ul style="list-style-type: none">機械学習における個人情報保護技術機械学習モデルからのプライバシー搾取防止	Differential Privacy Inversion Attack,
5. 公平性の尊重	<ul style="list-style-type: none">公平性のためのチェック方法DB整備	
6. 透明性の追求	<ul style="list-style-type: none">機械学習の根拠を解釈するための技術透明性のためのドキュメント化	Grad-cam, Lime, Model Card, Data card
7.AIの発展と人材の育成	<ul style="list-style-type: none">教育用マテリアル、ツール	Assessment Examples Assessment Check sheet

XAIのソニーの実現事例

Neural Network Console Windows版Version 1.50公開

Tuesday, July 30, 2019 | News
Posted by Shinichiro Takahashi



Grad-CAM (※1) は、認識結果に対して大きな影響を及ぼす入力データを可視化するためのポピュラーな手法の一つです。

Grad-CAMを用いるには以下の操作を行います。

1. Convolutional Neural Networksを用いた画像認識プロジェクトにおいて、学習と評価実行を行う
2. EVALUATIONタブに表示された評価画像を選択する
3. EVALUATIONタブの評価結果、右クリックメニューからPlugin、Grad-CAMを選択
4. class_indexに可視化を行うクラスのIndexを指定（1000クラス分類の場合0～999など）

Grad-CAMの結果画像を大きく表示するには、EVALUATIONタブに表示されるGrad-CAMの結果画像をダブルクリックします。

<https://support.dl.sony.com/blogs-ja/neural-network-console-winapp-update-1.50/>

機械学習を用いた予測分析ソフトウェア「Prediction One」の提供を開始
～専門知識や経験がなくても、幅広い分野で高精度な予測分析が可能に～



https://www.sonymetwork.co.jp/corporation/release/2019/pr20190612_0019.html

ソニーグループAI倫理ガイドライン (2018/9 Release)

- ソニーグループAI倫理ガイドライン
 - 前文
 - 適用範囲
 - 定義
 - 方針の見直し

理念

ソニーが目指す「在るべき姿」

統合性

- 豊かな生活とより良い社会の実現
- ステークホルダーとの対話
- 安心して使える製品・サービスの提供
- プライバシーの保護
- 公平性の尊重
- 透明性の追求
- AIの発展と人材の育成

ASU/AMT, Partnership on AI, 国際計, 人工知能学会, 総務省, 経済産業省, 個人情報保護委員会, AI倫理ガイドライン

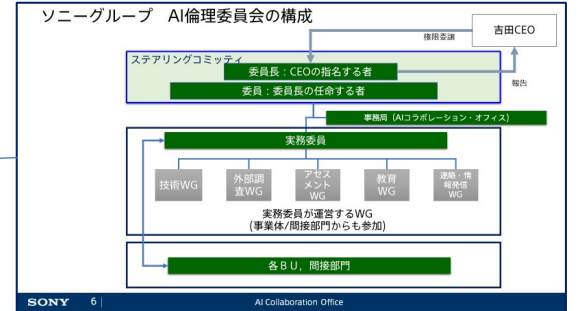
社外のAI関連団体などとも連携

ソニーグループのPurpose & Valuesをうけて 2019年3月に更新

SONY 4 | AI Collaboration Office

ソニー G p A I 倫理ガイドライン

体制



教育と啓発：AIを活用し社会の発展に寄与するために

ソニーグループ45社 約3万人の受講

AI倫理とはなにか、ソニーグループAI倫理ガイドライン概略、データマネジメント概略

全社員向けeLearning

シンポジウム 対談、専門家による講演会

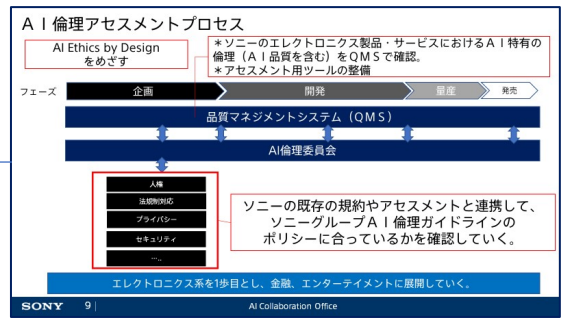
社内ポータルによる 情報共有、情報発信

社外HPによる発信と 外部コラボレーション

SONY 7 | AI Collaboration Office

教育

遵守ルール・プロセス・オペレーション



XAIの実現事例

機械学習を用いた予測分析ソフトウェア「Prediction One」の提供を開始

～専門知識や経験がなくても、幅広い分野で高精度な予測分析が可能に～

Neural Network Console Windows版Version 1.50公開

https://support.dl.sony.com/blog-ja/neural-network-console-winapp-update-1.50/

https://www.sonynetwork.co.jp/corporation/release/2019/pr20190612_0019.html

SONY 11 | AI Collaboration Office

ツール (アセスメント、技術)

パイロットアセスメント

事例

1999: AIBO (AI Robot Dog)

2018: AIBO@2018 (AI Robot Dog)

- ソニーは1999年にAIBOを発表
- 当時、さまざまな認識技術を含むAI・ロボットに関するリスクアセスメントをQAとして実施。
- 新しいaibo@2018にもその経験を活かしている
- AI倫理が話題になる前からソニーには誤認識などを含むAI品質に関しては重要視するカルチャーがある。
- IMX-500は、組み込みAIを含む新しいイメージセンシングデバイス。
- MSTとJoint-Labを構築し、そこでサードパーティを含んで、AIの開発を進行中
- AI倫理の分野でもMSTと共同でAIマネジメント体制をつくり、アセスメントプロセスを構築中。

SONY 13 | AI Collaboration Office

外部との協業

Ethics + Emerging Sciences Group

Keidanren Policy & Action AI活用戦略

CAI POLY

内閣府 人間中心のAI社会 実現会議

内閣府 AI戦略実行会議

総務省 AIネットワーク社会 推進会議

BSR PARTNERSHIP ON AI

Microsoft For IMX-500

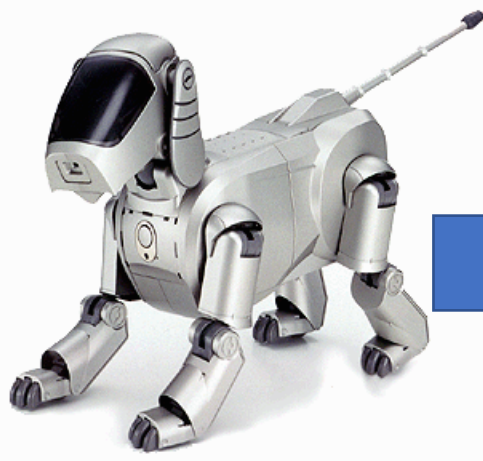
OECD AI GPAI (AI and Partnerships Response SubGroup)

注意：ロゴに關しての使用許可は得てない。

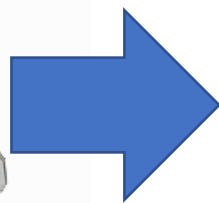
SONY 20 | AI Collaboration Office

外部協業

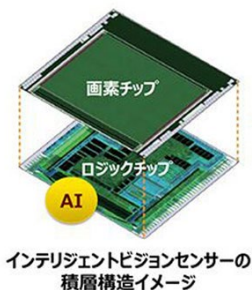
事例



1999



2018



- ソニーは1999年にAIBOを発表
- 当時、さまざまな認識技術を含むAI・ロボットに関するリスクアセスメントをQAとして実施。
- 新しいaibo@2018にもその経験を活かしている
- AI倫理が話題になる前からソニーには誤認識などを含むAI品質に関しては重要視するカルチャーがある。

- IMX-500は、組み込みAIを含む新しいイメージセンシングデバイス。
- MSFTとJoint-Labを構築し、そこでサードパーティを含んで、AIの開発を進行中
- AI倫理の分野でもMSFTと共同でAIマネジメント体制をつくり、アセスメントプロセスを構築中。

ソニーグループAI倫理ガイドライン (2018/9 Release)

- ソニーグループAI倫理ガイドライン
 - 前文
 - 適用範囲
 - 定義
 - 方針の見直し

理念

ソニーが目指す「在るべき姿」

統合性

- 豊かな生活とより良い社会の実現
- ステークホルダーとの対話
- 安心して使える製品・サービスの提供
- プライバシーの保護
- 公平性の尊重
- 透明性の追求
- AIの発展と人材の育成

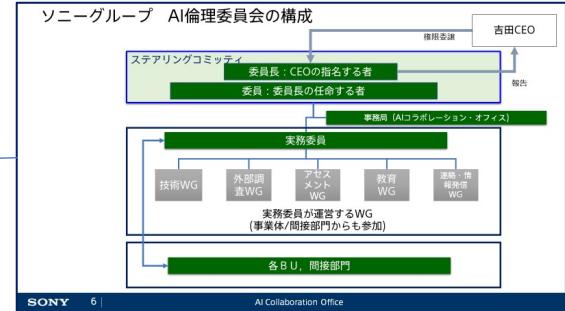
ASU/AMT, Partnership on AI, 人工知能学会, 総務省, AI推進戦略, AI倫理ガイドライン, 社外のAI関連団体など多岐にわたる

ソニーグループのPurpose & Valuesをうけて 2019年3月に更新

SONY 4 | AI Collaboration Office

ソニー G p A I 倫理ガイドライン

体制



教育と啓発：AIを活用し社会の発展に寄与するために

ソニーグループ45社 約3万人の受講

AI倫理とはなにか、ソニーグループAI倫理ガイドライン概略、データマネジメント概略

全社員向けeLearning

シンポジウム 対談、専門家による講演会

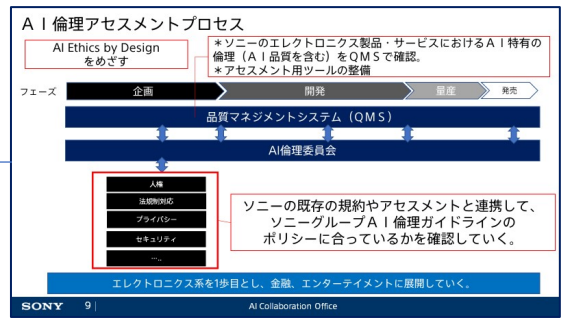
社内ポータルによる 情報共有、情報発信

社外HPによる発信と 外部コラボレーション

SONY 7 | AI Collaboration Office

教育

遵守ルール・プロセス・オペレーション



XAIの実現事例

機械学習を用いた予測分析ソフトウェア「Prediction One」の提供を開始

～専門知識や経験がなくても、幅広い分野で高精度な予測分析が可能に～

Neural Network Console Windows版Version 1.50公開

https://support.dl.sony.com/blogs-ja/neural-network-console-winapp-update-1.50/

https://www.sonynetwork.co.jp/corporation/release/2019/pr20190612_0019.html

SONY 11 | AI Collaboration Office

ツール (アセスメント、技術)

パイロットアセスメント

事例

1999: AIBO (AI Robot Dog)

2018: AIBO@2018 (AI Robot Dog)

- ソニーは1999年にAIBOを発表
- 当時、さまざまな認識技術を含むAI・ロボットに関するリスクアセスメントをQAとして実施。
- 新しいaibo@2018にもその経験を活かしている
- AI倫理が話題になる前からソニーには誤認識などを含むAI品質に関しては重要視するカルチャーがある。
- IMX-500は、組み込みAIを含む新しいイメージセンシングデバイス。
- M S F TとJoint-Labを構築し、そこでサードパーティを含んで、AIの開発を進行中
- AI倫理の分野でもM S F Tと共同でAIマネジメント体制をつくり、アセスメントプロセスを構築中。

SONY 13 | AI Collaboration Office

外部との協業

Ethics + Emerging Sciences Group

Keidanren Policy & Action AI活用戦略

CAI POLY

内閣府 人間中心のAI社会 実現会議

内閣府 AI戦略実行会議

総務省 AIネットワーク社会 推進会議

BSR PARTNERSHIP ON AI

Microsoft For IMX-500


OECD AI GPAI (AI and Partnerships Response SubGroup)

注意：ロゴに關しての使用許可は得てない。

SONY 20 | AI Collaboration Office

外部協業

外部との協業

 Ethics + Emerging Sciences Group

CAL POLY

 Keidanren
Policy & Action

AI 活用戦略

~AI-Ready な社会の実現に向けて~

 内閣府
Cabinet Office

人間中心のAI社会
原則会議

 内閣府
Cabinet Office

AI戦略実行会議

 総務省
MIC
Ministry of Internal Affairs
and Communications

AIネットワーク社会
推進会議

BSR

PARTNERSHIP ON AI

Microsoft

For IMX-500

OECD.AI

GPAI
(AI and Pandemic Response
SubGroup)

注意：ロゴに関する使用許可は得てない。

ソニーグループAI倫理ガイドライン (2018/9 Release)

- ソニーグループAI倫理ガイドライン
 - 前文
 - 適用範囲
 - 定義
 - 方針の見直し

理念

ソニーが目指す「在るべき姿」

統合性

- 豊かな生活とより良い社会の実現
- ステークホルダーとの対話
- 安心して使える製品・サービスの提供
- プライバシーの保護
- 公平性の尊重
- 透明性の追求
- AIの発展と人材の育成

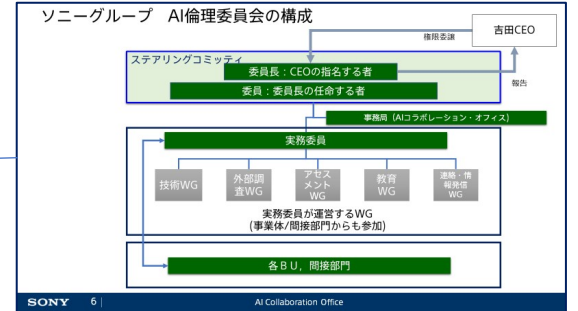
ASIL/AMT, Partnership on AI, 国際化, 人工知能学会, 倫理設計, 総務省, 社外のAI関連団体など多岐にわたる

ソニーグループのPurpose & Valuesをうけて 2019年3月に更新

SONY 4 | AI Collaboration Office

ソニー G p A I 倫理ガイドライン

体制



教育と啓発：AIを活用し社会の発展に寄与するために

ソニーグループ45社 約3万人の受講

全社員向けeLearning
AI倫理とはなにか、ソニーグループAI倫理ガイドライン概略、データマネジメント概略

シンポジウム 対談、専門家による講演会

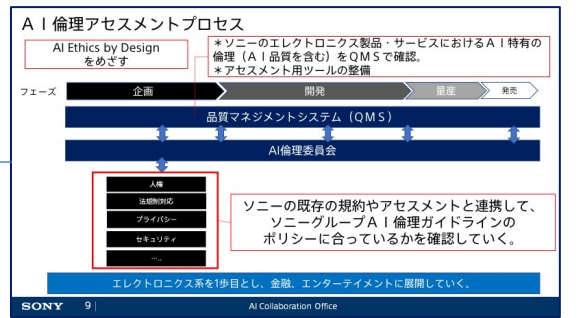
社内ポータルによる 情報共有、情報発信

社外HPによる発信と 外部コラボレーション

SONY 7 | AI Collaboration Office

教育

遵守ルール・プロセス・オペレーション



XAIの実現事例

機械学習を用いた予測分析ソフトウェア「Prediction One」の提供を開始
～専門知識や経験がなくても、幅広い分野で高精度な予測分析が可能に～

Neural Network Console Windows版Version 1.50公開

https://support.dl.sony.com/blogs-ja/neural-network-console-winapp-update-1.50/

https://www.sonynetwork.co.jp/corporation/release/2019/pr20190612_0019.html

SONY 11 | AI Collaboration Office

ツール (アセスメント、技術)

パイロットアセスメント

事例

1999: AIBO (AI Robot Dog)

2018: AIBO@2018 (AI Robot Dog)

- ソニーは1999年にAIBOを発表
- 当時、さまざまな認識技術を含むAI・ロボットに関するリスクアセスメントをQAとして実施。
- 新しいaibo@2018にもその経験を活かしている
- AI倫理が話題になる前からソニーには誤認識などを含むAI品質に関しては重要視するカルチャーがある。
- IMX-500は、組み込みAIを含む新しいイメージセンシングデバイス。
- M S F TとJoint-Labを構築し、そこでサードパーティを含んで、AIの開発を進行中
- AI倫理の分野でもM S F Tと共同でAIマネジメント体制をつくり、アセスメントプロセスを構築中。

SONY 13 | AI Collaboration Office

外部との協業

Ethics + Emerging Sciences Group

Keidanren Policy & Action AI活用戦略

CAI POLY

内閣府 人間中心のAI社会 実現会議

内閣府 AI戦略実行会議

総務省 AIネットワーク社会 推進会議

BSR PARTNERSHIP ON AI

Microsoft For IMX-500

OECD AI GP AI (AI and Platform Response SubGroup)

注意：ロゴに關しての使用許可は得てない。

SONY 20 | AI Collaboration Office

外部協業

SONY

SONY is a registered trademark of Sony Corporation.

Names of Sony products and services are the registered trademarks and/or trademarks of Sony Corporation or its Group companies.

Other company names and product names are registered trademarks and/or trademarks of the respective companies.